

授業科目名 <英訳>		感染症疫学 Infectious Disease Epidemiology			担当者所属・ 職名・氏名		医学研究科 教授 木原 正博				
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2015・ 前期集中	曜時限	前期後半 木・2	授業 形態	講義	使用 言語	英語
【授業の概要・目的】											
感染症の問題を人間文明との相互作用として理解することにより、現代の感染症の人類史的意義を学び、また、エイズ問題を事例としながら、感染症流行の世界的現状・背景・影響を理解することにより、感染症流行の社会・文化・経済・政治的文脈を学ぶ。さらに、感染症疫学という学術分野で用いられる、基礎概念・調査方法・数学的方法を学ぶとともに、具体的にわが国で実施されている感染症対策についてその概要を学ぶ。											
【到達目標】											
(1)感染症と人間の歴史の関係を省察し、感染症の現代的意義を理解する。 (2)世界の感染症流行の現状、背景、その影響について理解する。 (3)エイズ流行の現状と、脆弱性の社会的構造を理解する。 (4)感染伝播の生物学的基礎、理論的基礎について理解する。 (5)感染症アウトブレイクの調査方法の基礎を理解する。 (6)日本の感染症対策を理解する。											
【授業計画と内容】											
前期木曜日2限目											
第1回 6月4日感染症と人間の歴史（1） 第2回 6月11日感染症と人間の歴史（2）、世界の感染症流行の現状（1） 第3回 6月25日世界の感染症流行の現状（2）、エイズと社会（1） 第4回 7月2日エイズと社会（2）、薬害エイズ問題 *薬害エイズ問題では、患者さんに実際にお話をしてもらいます（日本語）。 第5回 7月9日感染症疫学の基礎：基本概念と数理モデル 第6回 7月16日フィールドエピデミオロジー（1） 第7回 7月23日フィールドエピデミオロジー（2） 第8回 7月30日日本の感染症対策について 試験 8月6日筆記試験											
その他の講義担当者											
【履修要件】											
MPHコア（選択必修）											
----- 感染症疫学(2)へ続く ↓ ↓ ↓ -----											

感染症疫学(2)

【成績評価の方法・観点及び達成度】

出席30点、試験70点（単位取得のためには、合計で60%以上の得点を得ていることが必要）。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

(1)Kramer A, Kretzschmar M, Krickeberg. Modern infectious disease epidemiology: Concepts, methods, mathematical models and public health. Springer, 2010（適度の長さで内容も簡潔でかつ充実した教科書です。）

(2)Nelson KE and Williams CM. Infectious disease epidemiology- Theory and practice. 2nd edition. Jones and Barlett, 2007（感染症の歴史から数理モデル、感染症各論を含む意、現在最も包括的で優れた感染症疫学の教科書と考えられます。）

(3)別冊日経サイエンス「感染症の脅威ーパンデミックへの備えは万全か？」 日経サイエンス編集部. 2008年（現代的感染症の課題をわかりやすく解説しています）。

(4)マクニール WH. 疫病と世界史 上・下（佐々木昭夫訳）. 中公文庫, 2007年（人間の歴史を感染症の観点から考察した世界的名著です）。

【授業外学習（予習・復習）等】

フィールドエピデミオロジーの講義までには、ケースコントロール研究の概念を熟知しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

講義場所：先端科学研究棟1階セミナー室

連絡先：内線4350

※オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。